農林水産大臣賞受賞

“自分たちの地域は自分たちの手で～小さな自治　酒谷村～”

受賞者　酒谷地区むらおこし推進協議会

（宮崎県日南市）

■　地域の沿革と概要

酒谷地区は、日南市の中心部から 10km ほど離れた市の北西部に位置し、昭和 31 年４月に旧日南市と合併する以前は酒谷村であった。

第１図　位置図

■　むらづくりの概要

１．地区の特色

周辺を山々に囲まれ、古くから農業と飫肥杉に代表される林業を主産業としてきた中山間地域で、全国棚田百選にも選定された「坂元棚田」が遺るなど、日本の山村の原風景を色濃く残し、四季折々の豊かな顔を持つ地域である。

第１表　地区の概要

事　項	内　容	
地区の規模	旧村	
地区の性格	地縁的集団	
農家率（内訳）		17.9%
	総世帯数	548戸
	総農家数	98戸
専兼業別農家数（内訳）	専業農家	33戸
	1種兼業農家	2戸
	2種兼業農家	18戸
農用地の状況（内訳）	総土地面積	8,588ha
	耕地面積	119ha
	田	94ha
	畑	15ha
	耕地率	1.4%
	農家一戸当たりの耕地面積	1.2ha

２．むらづくりの基本的特徴

（１）むらづくりの動機、背景

酒谷地区の人口は、昭和 25 年の 5,131 人をピークに減少を続け、30 年後の 55 年には 2,330 人となった。さらに、平成２年には 2,000 人を切る 1,830 人となり、高齢化の進行、若者の減少及び酒谷小・中学校の児童・生徒の減少等により地域活力が低下している状況に多くの住民が地区の将来に危機感を持った。

そして、地区の有志が住民総出のむらづくり運動の必要性を感じ、区長会(現自治会長会)などで新たな組織体制づくりに向けて協議を始めた。およそ１年間の議論の末、平成５年５月に地区住民、小中学校長、郵便局長などからなる「酒谷地区むらおこ

写真１　坂元棚田

し推進協議会」（以下、「協議会」という。）が発足し、新たなむらづくり運動がスタートした。

この頃は、地区の中央部にある日南ダムが、地域の活性化を図るため地域の創意工夫で利活用を進められる「地域に開かれたダム」に指定（国土交通省）され、また、地区を貫き日南市と都城（みやこのじょう）市を結ぶ国道222 号線バイパスが開通して交通量が大幅に増える見込みもあった。さらに、日南市内に道の駅を建設する動きも始まっていた。

協議会は、こうした状況も踏まえつつ、地区にある資源を見つめ直し、新たなイベント・活動を企画・実行することとなった。

①朝市

月２回、ＪＡはまゆう酒谷支所の空き駐車場で野菜や加工品などを販売した。この朝市が「生産者の顔が見えて安心」という評価を得て、毎回市内から 200～300 人の利用客が訪れ、市民の交流の場となるとともに、地域特産物の掘り起こしにもつながった。

このことが、平成９年の常設直売所「酒谷ふるさと特産品センター」の建設、11 年の「道の駅酒谷」の認定につながった。

②せせらぎの里酒谷まつり

小布瀬（おぶせ）の滝は市内に唯一ある滝で、地元自治会等が毎年８月に「小布瀬の滝まつり」を行っていたが、協議会がこれを引き継ぎ、滝、石橋、棚田、日南ダム等を一体的にＰＲする地区最大のイベントとして開催するようになった。

③環境美化活動

地区の景観美化などを狙い、小中学生も参加しながら、日南ダム周辺、国道 222 号線沿い、坂元棚田周辺等に開花時期の異なる桜を計画的に植栽した。

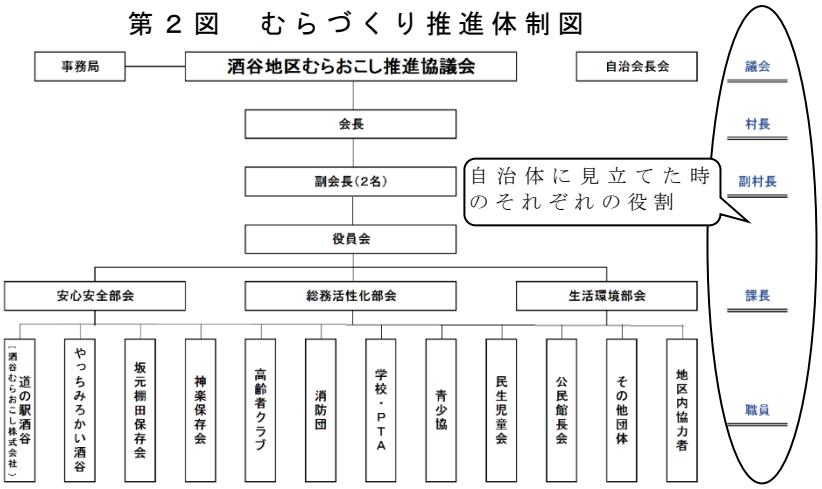
（２）むらづくりの推進体制

①組織体制と会員

明確なむらづくりの視点を持つため、総務・活性化部会、安心・安全部会、生活・環境部会と３つの部会を設け、役割分担をした上で各種活動を行っている。それぞれの構成員の位置づけや組織としてのビジョンを意識することで、スムーズにむらづくり活動を実施することができている。代議員数は 96 名（平成 30 年４月１日現在）で、自治会、消防団など多様な機関・団体・組織のメンバーが集まっている。

また、総務・活性化部会において地区住民の意見集約を行うとともに、役員会を毎月開催しており、合意形成・意思決定の仕組みが確立されている。このように「酒谷に生まれてよかった。酒谷に住んでよかった。“自信と誇り”の持てる地域にしよう。」という協議会の目的と「自分たちの地域は自分たちで作る」という協議会の活動理念のもと、①意見集約、②意思決定、③各種活動が実践されており、酒谷という小さな地区で「小さな自治」が成り立っている。

第２図　むらづくり推進体制図



第２表　協議会各部会の概要

	部　　会	活　　動　　内　　容
総部会員96名	総務･活性化部会	地域住民の意見集約や情報発信、地域活性化のための取組などを行う。 ○各種調査　○計画策定　○広報誌の発行　○各種まつり ○伝統文化継承　○スポーツ大会　○産業振興　○高齢者訪問事業
	安心･安全部会	地域住民が安心して暮らせる環境と、一人ひとりが大切にされ、充実した生活ができる環境づくりを目指す。 ○交通安全　○防犯　○防災活動　○災害対策　○見守り ○子育て　○青少年健全育成　○高齢者生きがい活動
	生活･環境部会	地域内の公的施設等の保全と、環境美化を推進し、快適で気持ちのよい生活ができる環境づくりを目指す。 ○公共施設の整備・保全　○ゴミ対策　○環境保全 ○地域内清掃　○花いっぱい運動

②関連団体との連携・協力

ア．やっちみろかい酒谷

やっちみろかい酒谷は、協議会の活動をより機動的に実行するために地区の若手が平成６年に組織したグループであり、５月５日には地区のＰＲとこどものお祝いとして、日南ダム堤体上に鯉のぼりを泳がせる「鯉のぼり揚げ」を開催し、毎年多くの観光客が訪れている。

イ．坂元棚田保存会

坂元集落では坂元棚田を地域の活性化に活用しようと「坂元棚田保存会」を組織し、棚田のＰＲや都市住民との交流を行う「せせらぎの里坂元棚田まつり」を協議会とともに実施している。

ウ．酒谷むらおこし株式会社

道の駅酒谷を管理運営してきた酒谷ふるさと特産品センター管理運営協議会（任意団体）は、利用客や地区住民に対して安定的にサービスを提供しつつ、持続的に事業を展開するため、平成 23 年に地区住民が株主となって「酒谷むらおこし株式会社」に改組し、以後同社がその管理運営を担っている。

写真２　道の駅酒谷

③自主財源の確保（行政に依存しない財源づくり）

協議会設立時から、地区の全世帯が年間 1,200 円ずつ、酒谷むらおこし株式会社が 1 社で 50 万円の協力金を拠出しており、これら協力金の総額は年間 100 万円程となっている。

また、平成 30 年度からは、地区に残る炭焼きの文化を活かそうと、炭焼窯を手づくりし、炭の製造・販売を始めており、新しい財源として期待されている。

■　むらづくりの特色と優秀性

１．むらづくりの性格

「自分たちの地域は自分たちでつくる」という姿勢の下で、目的と手段を見定めて活動を継続してきた25年程の長い歴史がある。また、道の駅酒谷等と連携をして経済活動を充実させるとともに、棚田の保全や福祉サービスなどの活動も積極的に取り組んでいる。

２．農業生産面における特徴

（１）棚田を活用した酒谷ファンづくり

協議会は、坂元棚田保存会と連携し、美しい風景を遺産として後世に残すとともに、坂元棚田保存活動やグリーンツーリズムを通じて都市農村交流を振興することで、農村地域の活性化に取り組んでいる。

写真３　棚田トーチ

平成 14 年から開始した坂元棚田オーナー制度は、年会費 35,000 円で田植え、石垣の清掃、稲刈り、収穫祭などの体験ができるとともに棚田米 25kg が届く仕組みであり、現在 23 人のオーナーとその家族などが米作りを体験している。なお、年会費 35,000 円のうち 5,000 円は、会員からのご厚意で保存活動の経費として上乗せされたものである。

写真４　棚田オーナー制度（稲刈り）

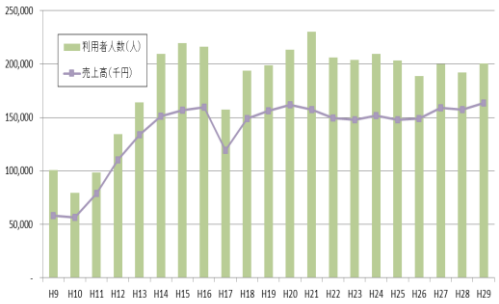
（２）地元産にこだわった道の駅の運営

道の駅酒谷で販売する農産物は地元産にこだわり、食堂で提供する米は坂元棚田産を中心とし、他の食材も可能な限り地元産を優先している。特に人気商品の「草だんご」は年間２千万円を超える売上で、その原料のよもぎも全て地元産を用いている。平成 20 年には「みやざき地産地消こだわり食材の店」（みやざき食と農を考える県民会議）として認定された。

写真５　名物「草だんご」づくり

こうした取組みにより、道の駅酒谷を目的地とする地区外から多くの利用客を確保しており、年間来客数は約 20 万人、年間売上は約１億６千万円で推移し、これに係る地区の生産者（約 100 人）の年間総収入も約４千万円にのぼっている。

第３図　道の駅酒谷の利用者人数、売上高の推移



（３）地区に自信と誇りを持った担い手の育成

協議会は、設立時から農作業を通じて農業の大切さを肌で感じてもらうため、また、ふるさとでの思い出づくりにと、酒谷小学校が行う田植祭と収穫祭において、小学生と一緒に田植え、稲刈り、餅つきなどを行ってきた。また、小学生は「緑の少年団」として協議会の環境美化活動に参加している。

酒谷小学校で学び、施設野菜、養鶏などを営むＪＡはまゆう青年部会員は、「今度は自分たちが」との思いから、小学生と一緒に田植え、稲刈りなどに参画している。

協議会が「酒谷を自信と誇りの持てる地域にしよう」と 25 年間続けてきた活動は、確実に地域づくりや農業生産活動を担う人材を育てている。

３．生活・環境整備面における特徴

（１）各種イベント実施による地域活性化

協議会では、交流人口拡大及び地区住民の活力創造のため様々なイベントを実施している。

なかでも、毎年地区外から約 3,000 人の来客があり、地区最大のイベントである「せせらぎの里 酒谷まつり」は、約４ヶ月前から役員会、まつり担当部会である総務・活性化部会、全代議員で構成するまつり実行委員会等を繰り返し行い、ステージイベントの内容などを協議し、まつりを作り上げている。

まつりを通じて酒谷のファンが増え、道の駅酒谷の売り上げが伸び、坂元棚田や小布瀬の滝などをはじめとした観光地への来客増につながっている。

【協議会が実施する各種イベント】

・せせらぎの里酒谷まつり　・坂元棚田まつり　・棚田 3,000 個のトーチ点灯
・小布瀬の滝ライトアップ　・日南ダムこいのぼり掲揚　・コンサート開催
・四半的大会　・注連縄作り　・そば打ち体験　・体験学習
・グランドゴルフ大会　・収穫祭
・大晦日に年越しそば配布（75 歳以上の一人暮らしの方）

（２）地元に利益を還元する道の駅の体制づくり

道の駅酒谷は、雇用の場としても重要な役割を担っており、オープ

ン当初から「雇用は地元から」という方針で、地区内及び地区出身者を優先して採用している。地元を愛する住民がそれぞれの役割を担い、自らが生活する地域で働き、所得を得て地区に貢献できる喜びが雇用に大きくつながっている

また、道の駅酒谷のスタッフは、女性駅長を中心にオープン当初から全員が女性であり、女性ならではの感性や前向きな姿勢を遺憾なく発揮し、地域の顔である道の駅の現場を切り盛りしている。

現在、道の駅酒谷のスタッフ 23 人は全て地区居住者及び地区出身者であり、スタッフの給与として約４千万円が地区に還元されている。

（３）高齢者が住み続けられるサービスの提供

酒谷地区は、高齢化率が非常に高く、各集落の半分程度が高齢者世帯であり、高齢者の一人暮らしの世帯も多い。また、空き家も多くなってきている。このため、協議会では青色パトロールカーによる防犯巡回指導を毎週実施している。

また、道の駅酒谷では、見守り活動を兼ねた弁当宅配サービスを平成 26 年度より実施している。はじめは、メニュー、価格、配達日など高齢者が望むものがわからず手探りのスタートだったが、現在は運転免許証を返納した夫婦や身体の不自由な方などに利用されている。また、道の駅酒谷に出す生産物の集荷、販売品の配達、携帯電話の操作方法の相談などにも対応しており、道の駅酒谷が地区に無くてはならないものとなっている。

（４）地区で受け継がれてきた伝統芸能等の継承

協議会は「酒谷を自信と誇りの持てる地域にする」活動として、伝統芸能や郷土料理の継承に取り組んでいる。

写真６　伝統芸能 浦安の舞

このため、協議会では、酒谷神楽保存会と連携し、酒谷神社及び岩井原（いわいはら）神社に伝わる神楽、獅子舞、浦安の舞を継承する活動を行っており、各種まつりや秋祭りでは若者や小中学生を交えて奉納している。

また、道の駅酒谷では、草だんご、あくまき、地こんにゃく、わさび味噌、棚田そばなどの郷土料理を販売するとともに、市内の小学校の児童を対象にした、そば打ちや草だんご作りの体験学習や地域社会学習の受入れを行っている。

そのほか、協議会会員が中心となって活動する女性グループが、地域の食材を使ったメニューの開発や郷土料理伝承のための料理教室などを行っており、最近は若い主婦層の参加も増加傾向にある。